

上京区130周年記念

上京

史蹟と文化

2009 VOL. **37**



美を語る

皇后冊立図

今年の春の京都御所特別公開は、今上のご結婚五十年を記念して、これまでほとんど公開されていなかった皇后宮常御殿など、後宮の区域も公開されたのが話題となつて、大変な人出でした。若い頃学んだ高校も大学もごく近くであったのに、美しい松林や白壁を遠く眺めるばかりで、内裏の奥深くまで、ゆっくり拝観したのは、今春がはじめてでした。

華やかなご成婚時の儀装馬車や紫宸殿の様子もさることながら、『源氏物語』や『更級日記』を食事も睡眠の時間も惜しんで読んだことなどを思い出しながら、飛香舎をはじめ、後宮の屋内を、前庭から興味深く拝見しました。平安時代宮廷の面影を伝えるというこの区域は、思いのほか簡素で、清潔で、植栽や池ちひ汀も美しく、公式儀式の行われる紫宸殿、小御所、昼の御座おましと呼ばれた清涼殿などとは別趣の親しみがありました。後宮の入口には玄輝門、さらにその外側には朔平門が外部を隔ていますが、朔平門は修復を終えたばかりで、いかにも皇后宮の玄関らしい華やかな趣を添えていました。

今から四十二年前、ちょうど明治維新から一〇〇年目にあたるこの年には、さまざまな記念行事とともに、さまざまな記念出版物も出ました。朝日新聞社出版の『原色 明治百年美術館』も、そうした出版物の一つで、当時はまだ珍らしかった原色図版の日本画、洋画、彫刻、版画二〇〇点が収められていました。作品は明治、大正、昭和前期（昭和十五年頃まで）のもので、明治に重点が置かれ、ぶ厚いのが難点でしたが、とても便利な本で、ハンドブック代わりに、よく参考にしたものです。

この本の日本画の一枚に、菅すが楯たて彦ひこの「皇后冊立」がありました。横山大観、菱



美術史家

加藤 類子

田春草、竹内栖鳳、上村松園、あるいは黒田清輝、青木繁、高村光太郎らが華々しく並ぶ中で、菅楯彦の一点は意外といえば意外でしたが、この本の出版の意図から言っても、各地の画壇の優れた作家作品を偏ることなく選ぶうとした意図から言っても、これは無くてはならなかった作品だったかも知れません。作品は、昭和十年（一九三五）明治神宮絵画館（現・明治神宮宝物殿）壁画として、当時の大阪府から献上されたものです。明治天皇は慶応三年（一八六七）一月、十六歳で践祚たご、十二月、小御所会議で王政復古を宣し、翌慶応四年（一八六八）九月、明治と改元しました。そして、同年十二月、右大臣一条忠香の第三女美子はつしを皇后に冊立しました。後の昭憲皇太后です。明治天皇は明治二年三月、事実上東京へ遷都されましたが、皇后冊立は京都御所で行われ、一二〇〇年に亘った京都の内裏での、最後の盛儀だったのではないかと思われれます。

作品には一条美子妃の輦車こしぐるまが、束帯に威儀を正した武官に迎えられ、宮門を守る吉上よしかみに牽かれて内庭に入る様子が画かれています。宮廷では中宮や女御じよごが入内する際、車に乗車したまま宮門に入ることを勅許する「輦車の宣旨」を蔵人が告げる儀式が行われてきましたが、美子妃入内の際にも、同様の儀式が行われました。美子妃の車は、朔平門の外で牛を離し、そこから人々が牽いて門を入りました。玄輝門の柱や門扉の明るい朱、吉上の衣服、大空の群青、手車の緑青、木立霞に施された金泥など、色彩は大和絵の伝統に忠実に、描法も控え目ながら、華やかさを匂わせています。日本の山河のおだやかな四季の情景を、仏画、仏教説話、祖師絵、軍記など、テーマを問わず、その背景として画き、常に先賢故実に忠実に従い、個性は極力抑え、しかも品格を重んじる大和絵の様式は、平安時代



菅 橋彦 「皇后冊立」 昭和10年（1935）
明治神宮宝物殿 蔵

以来長い伝統を引き継いできたものですが、明治から昭和初期にかけては、その復興期でもありました。松岡映丘「石大臣実朝」や菊池契月「敦盛」など、名作も生まれました。「皇后冊立」は昭和十年（一九三五）の作。まさに復興期のさ中に画かれたのです。

しかし、作者菅橋彦は、いわゆる大和絵系の画家とは言えません。明治十一年（一八七八）鳥取市に生まれ、先祖は倉吉藩の藩士と言われていますが、父は菅盛南と称する画家で、四条派の塩川文麟（一八〇八―一八七七）の弟子でした。文麟は呉春、その弟子の岡本豊彦に学んで、幕末の京都画壇に大きな影響を持った画家ですが、当時四条派の勢力は畿内にとどまらず、全国に及んでいたようです。たとえば、平福百穂の父にあたる平福穂庵、江戸の柴田是真なども、四条派に学んだ画家でした。盛南は文麟没後の明治十五年頃、未だ四歳の幼児であった橋彦、妻と共に大阪へ出ました。盛南は商家などの襖絵の注文に応じたり、行灯の絵を画いたりして、当時の画家の多くがしたように、細々と生計を立てましたが、橋彦十二歳の時に他界しています。それでも、橋彦は幼年時代、少年時代を

通じて、父盛南の四条派、つまり写生を重視する画技を習得したのでした。画家として立つまでの橋彦は、殆ど独学であつたらしい。ほぼ上村松園らと同世代ですが、まだ画家は、旧時代の絵師と、新時代の画家との間の、職人とも、芸術家ともつかぬ境遇を歩んでいた時代で、多くが独学というのも異とするに当たらないでしょう。

橋彦は勉強好きで、漢学を山本梅涯、国学を本居派の鎌垣春岡に学んで、その学問を通じて日本の古典や有職故実にも精通するようになっていきました。一方橋彦は、根つからの浪速っ子ながらに、深く大阪を愛しました。金沢から来阪した画家北野恒富もそうですが、大阪には他所から来た人々を魅惑し、溶解する何らかの作用があるのでしょうか。当時浪速の名妓と謳われた人を妻に迎えたのも、橋彦の大阪への愛情の一つのあらわれであつたのかも知れません。この夫人とは早く永別しましたが、その後の橋彦は、画道と古典研究、芸事に没頭し、雅楽や舞楽にも秀でていました。「菊池千本槍」（大阪市立美術館蔵）や「堺の夜市」のような群衆描写には、歴史画の生硬さの見られぬ生き生きとした躍動感がある一方、「皇后冊立」では、大和絵の形式と格調の美を、儀式と重なるように見事に描き出しています。さらに、蕪村の俳画「奥の細道」の場面を髣髴させるような瀟洒な小品を見ていると、この画家は本来文人画家ではなかつたかと思えます。少しもどかしいのは、大阪から僅か四十数キロに過ぎない京都のわれわれが、大阪の人々に愛された橋彦を、余り知る機会がなかつたこと。この作品を初見だと言つ読者も、少なからずあることでしょう。テーマがまた、「上京を画いた」などと言いつけるのかという疑問。それでもやはり、皇后冊立の儀式は、京に上京と下京しなかつたと言われる時代の上京で、一二〇〇年の間、繰り返し行われてきた儀式であることに違いはありません。

最後に、菅橋彦の、いかに深く大阪市民に愛されたかの証を、幾つか紹介しておきましょう。明治三十三年から三十七年、大阪陸軍幼年学校歴史画事囑託として歴史画を多く制作。昭和二十四年大阪府芸術賞、同二十六年大阪市文化賞、同三十三年芸術院恩賜賞。その外に、伝統の古楽保存を訴えて、四天王寺舞楽協会会長を務めました。晩年の昭和三十七年には、長年にわたる大阪文化への貢献を顕彰して、大阪市名誉市民に選ばれています。昭和三十八年、八十五歳で永眠。

大 小 路

上京の史蹟
その19

おおいこうじ

上立売通

上立売通

平安京が造営された平安時代の初頭、今の一条通にあたる一条大路より北は京外とされていた。幅十二丈の一条大路は平安京の北辺を区切る大路で、それより北は山城国愛宕郡に属し、山城国司の管轄下がありました。平安京内は左京職と右京職が管轄し、京

内には新しく神社や寺院を建立することは許されませんでした。

平安遷都当時、一条大路より北は畑地や藪地であったと想像されます。しかし時代が下がるにつれて高燥地である京外が開発され、平安京の道路が北へ延び、さらに東と西を結ぶ道路が発生します。現在の今出川通もその一つですが、上立売通もこうした新しい道路に始まっていると思われます。

今の上立売通の東端は寺町通に始まりますが、この道はやがて相国寺の境内を突き抜けます。この手前北側に常願寺、南側に法輪寺の二寺がありますが、いずれも相国寺とは関わりがありません。このあたりを毘沙門町といいます。これは鎌倉時代の建久六年（一一九五）に平親範が、祖先の造立した三つの寺をあわせて下出雲路の地に毘沙門堂を建てたことに由来します。応仁の乱で焼失し、山科に移転しましたが、今なお町名として残っているのです。なお、南北朝時代の洞院公賢が残した日記『園太暦』に、北山路（今出川）、毘沙門堂内大路（上立売）の地名が見え、中世には上立売通が毘沙



① 薩摩藩戦死者墓

門堂内大路といわれて、当時も都の北部の主要道路であったことがわかります。「塔ノ段」の地名も気になるところですが、これは後述の相国寺にかかわります。



② 相国寺天界橋



③ 相国寺法堂

相国寺の手前北側に「薩藩戦死者墓」という大きな墓標が建つ墓地があります。その墓碑銘の両脇に「甲子役」「戊辰役」と記され、周囲には多くの墓石が立ち並んでいます。これは甲子つまり元治元年（一八六四）の蛤御門の変、戊辰つまり明治元年の戊辰戦争で戦死した薩摩藩の藩士六十一人の墓地なのです。以来、薩摩藩士の子孫によって弔われ、昭和三十九年には甲子兵燹の百年を期して大きな墓標が建てられました。

相国寺

ここで上立売通は相国寺に行き当たります。ここからは相国寺の境内になります。もともとこれより東も相国寺の境内地であり、そのあたりに「塔ノ段」の地名が残り、かつて相国寺の七重の塔があった所と伝えられています。高さ三六〇尺、一〇九メートルに及ぶ高塔でした。近世初期の「洛中

洛外図屏風」の俯瞰はこの塔からだという説もあります。

相国寺は「萬年山相國承天禪寺」というのが正式名称で、「しようこくじ」と読みます。大相国とは唐名の太政大臣を指し、足利将軍三代の義満が太政大臣の極官を得たことにより一寺を建立し、自らの官職を寺名に加えたのです。寺名は「しようこくじ」であり、地名を「そうこくじ」というのは、京都の風習で、高貴な名称をはばかって読み方を変えたためです。京都の地名には、このような例が多く見られます。

この寺は臨済宗相国寺派の本山として京都五山第二位に列せられています。永徳二年（一三三二）、義満は後小松天皇の勅許により故人である夢窓疎石を開山とし、その弟子春屋妙葩が住持となって創建されました。将軍義満も土を運んで造営に手を尽くしたと伝えられています。その壮大な堂宇も応永元年（一三九四）の失火で焼

失します。幕府は守護大名に段銭を課し、この時に七重塔も造立されました。

総門を入った西側にある功徳池には石橋が架かっています。天界橋といい、応仁の乱の際には、細川晴元と松永久秀の軍勢が合戦の火蓋を切ったところとして知られています。その後も度重なる災禍で焼亡し、今に残る古建築としては、重要文化財に指定されている、慶長十年（一六〇五）に豊臣

新・古茶道美術品

清昌堂 やました

京都店・京都市上京区小川通寺ノ内上ル

〒602-0061 TEL (075) 431-1366

FAX (075) 431-1370

東京店・東京都新宿区市ヶ谷甲良町1-8

〒162-0856 TEL (03) 5261-4566

FAX (03) 3235-5677



④ 同志社大学 寒梅館

秀頼が再建した法堂のみとなっています。天明八年（一七八八）の大火で焼失した仏殿と山門の跡には礎石だけを残し、法堂は仏殿を兼ねています。今では仏殿跡の赤松林も相国寺を代表する景観として上京区民誇りの木に選定されています。平成十九年には、慶長年間に建立された浴室と勅使門、天明の大火後に再建された開山堂・方丈・方丈勅使門・庫裏・鐘楼・経蔵・弁天社・総門の十棟が京都府の有形文化財に指定されました。



④ 同志社大学 寒梅館

また西口には塔頭の瑞春院があります。ここは若年の作家・水上勉が修行した寺で、その作品『雁の寺』はその時の体験をもとに執筆されました。



烏丸通へ出ると西側に同志社大学の寒梅館があります。この場所は花御所といわれた室町殿（室町御所・室町幕府）があったところとされ、その遺構の発見に期待がかけられてきました。平成十四年、

寒梅館の建設に伴う発掘調査の結果、室町時代後半の石敷きが発見され、上京の歴史に新たなページが加えられました。この調査の結果については、本誌二十四号（平成十五年三月発行）で、同志社大学の鋤柄俊夫准教授が報告しておられますので、詳細については省略いたします。敷地の北西隅にはガラス貼りの鉄骨製の不思議な形をした施設が二つあります。中を

覗きますと石敷きが見えます。南北六メートル以上、東西一〇メートル以上の石敷きが広がっています。石敷きの中から一六世紀中頃の土器も出土し、さらにその下には一五世紀以前の室町殿に關係する可能性を伺わせる石組水跡も発見され、同じ場所に復原されています。

このように、いつでも遺跡を見られるような施設が設けられたのは、さすが考古学に大きな足跡を残す同志社大学ならではの思わすにはいられません。



烏丸通から西へ、いかにも西陣という感じの道を進みます。今では機音も少なくなりましたが、かつては機屋が軒を連ねていたのです。小川の跡である水落橋（本誌三十四号、大路小路・小川通参照）を過ぎ、智恵光院通に面して本隆寺がありますが、その北側に



西陣聖天と呼ばれる雨宝院の門が開いています。象頭人身の歡喜天(聖天)を安置するところから西陣聖天の名で知られ、狭い境内全部を覆うかと思えるような時雨の松でも有名です。

寺伝では弘仁十二年(八二二)空海が嵯峨天皇の病氣平癒を六臂の歡喜天に祈ったのが始まりとされています。当初、

千本五辻の大聖歡喜天寺にあったのを応仁の乱後、雨宝院としてこの地に再興されました。観音堂には平安時代中期の一木造の木造千手観音菩薩立像が安置されていて重要文化財となっています。境内の染殿の井は染物に用いるとよく染まるというので名水とされてきました。



⑤ 雨宝院 時雨松



六軒町通で上立売通は、上京区からは遠ざかります。

(出雲路敬直)

柔道圓心道場
〒602-0014
京都市上京区室町通寺之内上ル下柳原北半町 210
TEL (075) 441-1968 / FAX (075) 441-2972

山崎接骨院
〒602-0898
京都市上京区烏丸通寺之内西上ル相国寺西門前町 647
TEL (075) 451-6050 / FAX (075) 451-6051
<http://www.enshin.sakura.ne.jp/>

歴史文字シリーズ

伝 達 浪 漫

紀元前3000年頃。パンのシンボルが描かれ、食料配給の割り当てが記録されている。

和光印刷株式会社
〒602-0012 京都・烏丸通上御堂前上ル TEL.075-441-5408代
E-mail:info@wako-print.co.jp

「上京一史蹟と文化」

第三十七号の発刊に当たって



京都市長

門川 大作

中心となっていたいただきました上京区文化振興会の皆様、深く敬意と感謝の意を表します。

春はあけぼの、夏は夜、秋は夕暮れ、冬はつとめて……。千年前の京都で清少納言が綴った言葉は、宮仕えをしていた上京の地の四季の美しさに、思いを寄せたものではなかったでしょうか。その「枕草子」や「源氏物語」が書かれ、貴重な文化が育まれ、また応仁の乱や明治維新など、今日まで数々の歴史の舞台となってきた地域。上京区は、悠久の歴史と文化のロマンが色濃く凝集し、それぞれの時代の都人の息遣いが、今も身近に感じられる地域であります。

その歴史と文化のロマン、そしてそれを培った先人の息遣いを鮮やかに蘇らせる「上京一史蹟と文化」三十七号が、上京区一三〇周年記念号として発刊されますことを、心からお慶び申し上げます。

発刊に御尽力いただきました上京区民ふれあい事業実行委員会の皆様、編集の

本誌を通じて、多くの皆様に、上京区の歴史と文化の豊かさ、奥深さを感じていただきたい。同時に、上京区をこよなく愛する区民の皆様方によって、今も新たな歴史が刻まれ、成熟した市民文化が育まれていることを実感していただきます。そのように期待致しております。私と致しましても、上京区に象徴される京都の優れた地域力、人間力を最大限に生かし、皆様と共に汗する「共汗」の市政により、京都の更なる歴史と文化を育み、輝かしい未来を切り拓いて参る決意であります。

引き続き皆様と共に、この度の一三〇周年に続く上京区のみならずの発展、そして京都のまちの一層の飛躍に、全力を尽くして参りたいと存じますので、お力添えをよろしくお願い申し上げます。

「上京一史蹟と文化」の

発展を祈って

上京区長 北條和仁

この度、上京区民ふれあい文化日より「上京一史蹟と文化」が、上京区一三〇周年記念号として発刊されますことを心からお喜び申し上げます。

上京区は、平安京以来の長い歴史の中で、度重なる戦乱や火災等を経験しながらも、絶えることなく「京（みやこ）」の中心として在り続け、連続とした歴史に磨かれた質の高い市民文化の息づくまちであるとともに、西陣に代表される産

上京区一三〇周年記念号の

発行にあたり

上京区文化振興会長 小谷 一之

「上京一史蹟と文化」は、昭和五十一年より十五年間にわたり発行した冊子「上京の史蹟」を充実させたものとして、平成四年二月に発行して以来発行を重ね、今回で三十七号を迎えます。平安京

以来の長きにわたる上京の歴史や伝統に育まれた質の高い文化を身近に感じたい、ただくための冊子として区民の皆さまに親しんでいただいております。

業と暮らしの結びついた「職住共存」のまちでもあります。そして、明治十二年三月十四日に京都のまちに区政が施行され、上京区が誕生して以来、本年度で区制一三〇周年を迎え、本市の中でも最も長い歴史と伝統を受け継ぎながら、絶えず新しい文化を創造し、発展してきたすばらしいまちであります。

本年は上京区一三〇周年記念事業実行委員会の皆様方の御尽力の下、多彩な記念事業を開催して参ります。上京区の歴史と伝統を継承し、更なる発展に向け区民の皆様と共につかりと歩んで参りたいと存じますので、御理解と御協力を賜りますようお願い致します。

本年は、上京区が誕生して一三〇年という節目を迎える記念すべき年に当たります。「上京一史蹟と文化」においても、京都市歴史資料館にご協力いただき、古地図を見ていただきながら明治以降の上京区を振り返る特集記事を掲載し、区民の皆さまがこよなく愛しておられる「上京のまち」をあらためて見つめ直していただく機会なることを願っています。

上京区文化振興会としましては、皆さまのご支援をいただきながら、今後とも本誌の発行をはじめとする文化的な事業や活動を通じて、文化生活の向上に寄与してまいります。

上京区130周年記念事業協賛金募集のお願い

平成21年、私たちは、上京区130周年の節目の年を迎えました。この節目に当たり、ともすれば薄れがちな住民の共同意識を高め、次の10年のためのまちづくりを進めるため、様々な記念事業を展開してまいります。事業の成功のためには、関係者の皆様の情熱とご尽力に加え、財政的な基盤の確立が必要ですので、今回区民の皆様にご協賛金募集（目標額：300万円）の呼びかけをさせていただくことになりました。ご協力を賜りますようお願いいたします。

なお、5,000円以上の協賛金をいただきました皆様のお名前を、市民しんぶん上京区版130周年特集号（平成22年3月配布予定）に掲載させていただきます。（市民しんぶんに掲載するお名前を間違わないために、郵便振替でお願いします。払込依頼人と市民しんぶん掲載名が異なる場合は、払込取扱票の通信欄にその旨をご記入ください。）

ご協力いただける方は、下記払込取扱票により、8月31日（月）までをお願いします。

1口5,000（法人、商店、団体等は2口以上）をお願いします。なお、5,000円未満でもお受けします。

上京区130周年記念事業実行委員会

委員長 高瀬博章
上京区長 北條和仁

払込取扱票

通常払込料金
加入者負担

02 大阪

口座記号番号

009602300285

金額 ※ 千 百 十 万 千 百 十 円

加入者名
上京区130周年記念事業実行委員会

料金
備考

通信欄 ※ お名前にふりがなをお願いします。
払込みご依頼人と市民しんぶん掲載名が異なる場合は、市民しんぶん掲載名もご記入ください。
(市民しんぶん掲載名)
元学区名をご記入ください。(学区) (史)

ご依頼人 ※ おところ（郵便番号）
おなまえ 様
(電話番号 - -) 日附印

裏面の注意事項をお読みください。(ゆうちょ銀行) (承認番号大第43626号)
これより下部には何も記入しないでください。

振替払込請求書兼受領証

口座記号番号	009602	通常払込料金加入者負担
加入者名	上京区130周年記念事業実行委員会	
金額 ※	千 百 十 万 千 百 十 円	
ご依頼人	おなまえ ※ 様	
料金	日附印	
備考		

記載事項を訂正した場合は、その箇所に訂正印を押してください。
切り取らないで出してください。

この受領証は、大切に保管してください。

各票の※印欄は、ご依頼人において記載してください。

上京区130周年記念事業

1 事業の方針

- (1) 130周年記念事業は、新しいまちづくりにつながる事業を実施します。
- (2) まちづくりに不可欠な地域を愛する心と共同意識の涵養につながる事業を推進します。
- (3) 世代を超えた多くの区民が参加できる事業を実施します。

2 記念事業（実行委員会主催又は共催）

- (1) 新しいまちづくり
 - ・次期上京区基本計画の策定
 - ・上京区新総合庁舎基本計画策定
 - ・記念式典（事業成果発表）、祝賀会（22年3月7日）
- (2) 地域を愛する心と共同意識の涵養
 - ・オープニングイベント・記念講演会
 - ・上京茶会（5月・11月）
 - ・「上京－史蹟と文化」記念号（8月・2月）
 - ・記念ふれあい史蹟ウォーキング（11月）
 - ・ふれあい文化大学記念講座（10月）
 - ・記念音楽会（22年2月28日）
 - ・初代上京区役所跡地石柱設置（22年3月）ほか
- (3) 世代を超えた区民参加事業
 - ・区マスコットキャラクターの募集
 - ・京都サンガF.C. 交流会
 - ・撮っておき上京（写真公募）
 - ・NHK公開番組「上方演芸会」ラジオ第1
 - ・上京の伝統文化をまるごと体験！
 - ・京都サンガF.C. 応援ツアー
 - ・記念ふれあいまつり食育・エココーナー（10月）
 - ・区民作品展（11月～12月）
 - ・文化フェスティバル（22年1月17日）

3 協賛事業

- ・同志社大学「楽洛キャンパス」
- ・京都當道会「地歌・箏曲演奏会」
- ・歴史探訪館連続講座（秋頃）

（ご注意）

- ・この用紙は、機械で処理しますので、金額を記入する際は、枠内にはっきりと記入してください。また、本票を汚したり、折り曲げたりしないでください。
- ・この用紙は、ゆうちょ銀行又は郵便局の払込機能付きATMでもご利用いただけます。
- ・この払込書を、ゆうちょ銀行又は郵便局の渉外員にお預けになるときは、引換えに預り証を必ずお受け取りください。
- ・ご依頼人様からご提出いただきました払込書に記載されたおところ、おなまえ等は、加入者様に通知されます。
- ・この受領証は、払込みの証拠となるものですから大切に保管してください。



この場所には、何も記載しないでください。

古地図に見る上京区一三〇年

— 京都市歴史資料館協賛 —

■上京区の誕生

「上京区」という行政区画ができたのは百三十年前、明治十二年（一八七九）のことです。

明治十二年に郡区町村編制法という法律が施行され、日本全国の府県下が郡と区と町と村に分けられました。

京都府では府下を十八の郡に分け、郡の中で町と村をさらに細分しました。京都市街は別格で郡には属しません。

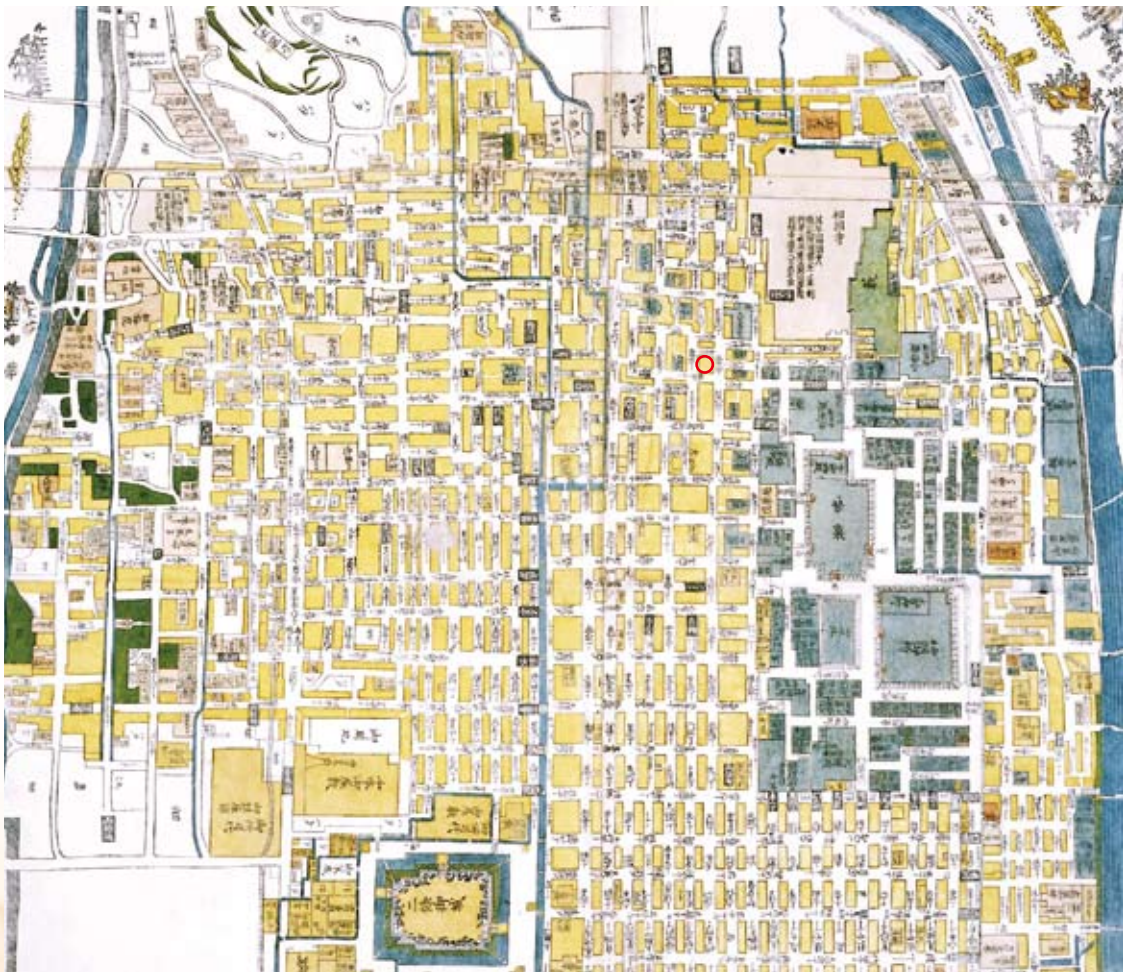
京都の中心部はそれまで上京と下京に分けられていましたが、この時から上京区と下京区に区分されました。上京と下京は中世以来の歴史的な区分なのですが、明治初めには近代的な行政区画のひとつになっています。

上京区と下京区ができた時には、まだ京都市は生まれていません。京都市は明治二十二年（一八八九）に市町村制という法律（市町村制）が法律の名ですにより誕生しますから、明治十二年から同二十二年までは京都府上京区と京都府下京区という行政区画でした。明治二十二年から京都府京都市上京区・下京区が発足します。

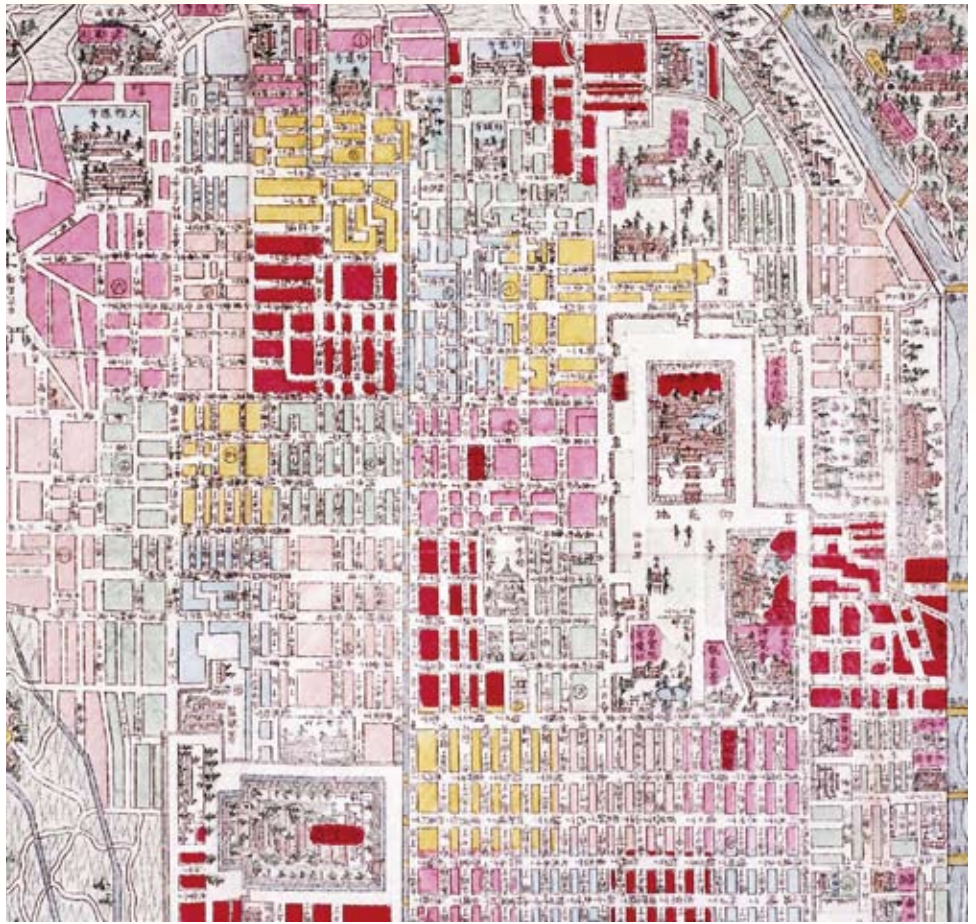
明治十二年が上京区の誕生です。今年の上京区一三〇周年に当たることから、四枚の古い地図で、上京区域のうつりかわりを見ることにしましょう。

■江戸時代の「上京区域」

下の図は天保二年（一八三二）に出版された「京町御絵図細見大成」という京都地図から、現上京



京町御絵図細見大成（天保二年）



京都府区組分細図（明治16年）

区域を示したものです。

ひとくちに江戸時代といっても二百六十年以上あるわけですから、その間には町のような変

わっているのですが、もっとも安定した時期の例をあげます。

江戸時代には京都の市街は上京と下京に分かれていました。南北

の境界は二条通です。

歴史的にみれば、戦国時代の京都には上京という独立した市街と、四条室町あたりを中心にした下京というやはり独立した市街があり、それらが次第に拡大して、二条通あたりで合体し、上京と下京からなる京都という江戸時代の都市ができたと考えられています。二条通を境界とするというのは自然の勢いでした。

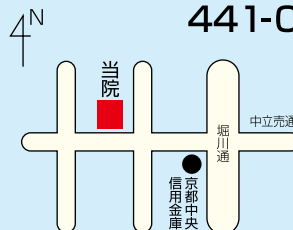
地図を見てもまず目につくのが禁裏、つまり現在の京都御所でしょう。禁裏のまわりには公家や官家の邸宅がびっしりと並んでいます。いまでは京都御苑という公園になっていますが、江戸時代ではここも市街地だったのです。

現上京区役所の前は今出川通です。前頁の古地図の上でさがしてみてください。禁裏の北に名前が

耳鼻咽喉科

鈴木医院

京都市上京区中立売通堀川西入
441-0675



診療時間

月 火 水 金 土

午前9時～12時
午後4時半～7時半

休診：土曜午後、木・日・祝

不動産高価買取宣言！

不動産屋をお探しですか？



京都プラン株式会社

〒603-8303
京都市北区築野十二坊町31番地
TEL 075-462-0017
URL <http://www.kyotoplan.jp>

売買・リフォーム・賃貸管理・不動産運用

記されています。この通りを西へ伸ばし、○印で示したところがいまの区役所の位置です。

現在の今出川通は、区役所の前から斜めになっています。東から進むと、東西の今出川通が西北西に方向を変えています。さらに北路の油小路との交差点あたりから西はまた東西に復しています。

ところが、古地図では今出川通は鍵の手に折れてつながっていません。斜めの道路などここにも見当たりません。斜めの今出川通は、大正元年に市電を通すため、斜めになめらかにしたものです。

今出川通にかぎらず、上京区域の北半分では途中で行き止まりになる通りが多く、これは現在でも変わりません。また、上京区域の西北部、西陣では通りで区画される町並が東西の細長いところが多く、碁盤の目、または南北に長い短冊形という京都の町並のイメージとはちよつとちがった形が現在まで続いています。

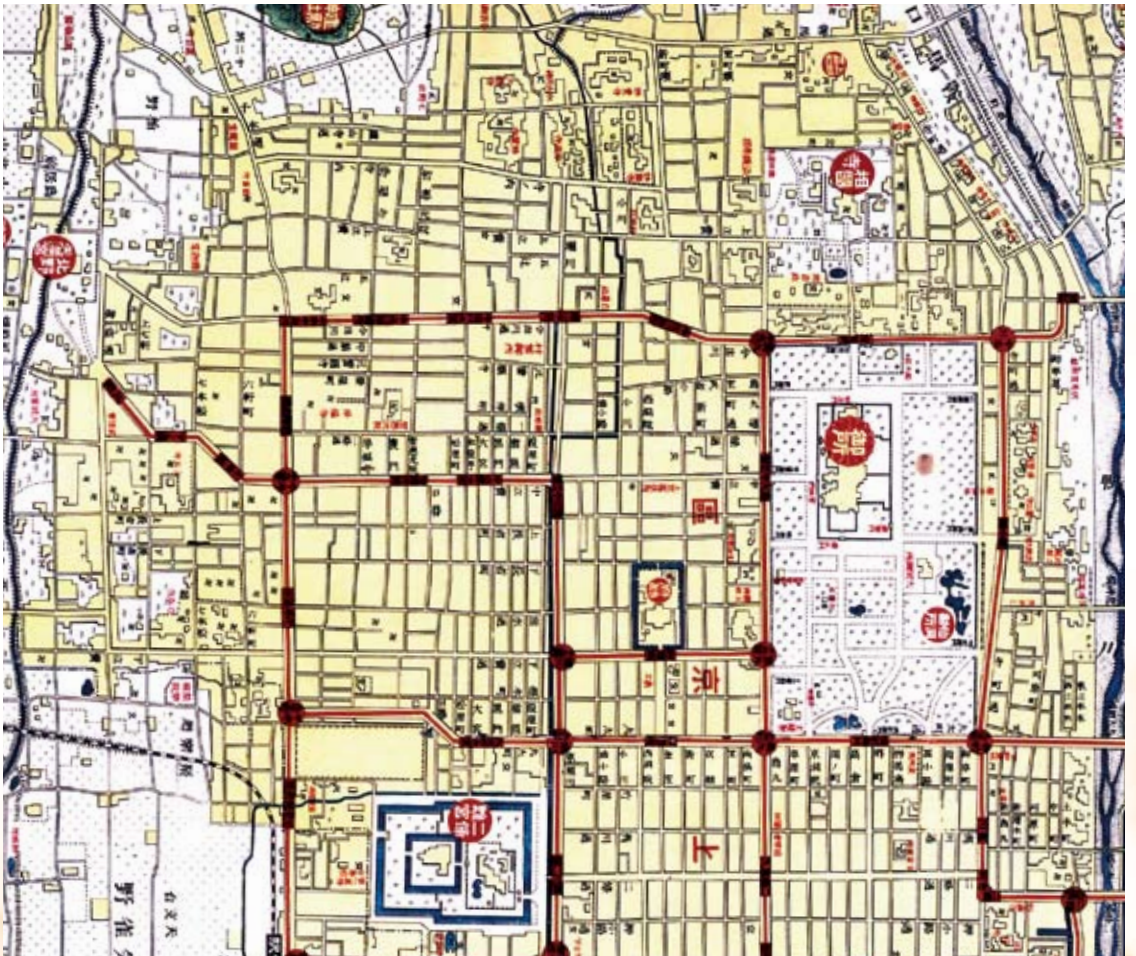
■明治の上京区

前頁の地図は明治十六年（一八八三）に出版された「京都府区組分細図」の現上京区域を中心にした部分。上京区ができて五年目です。地図名の「区」はもちろん上京区と下京区、「組」は現在の元学区の区域のことです。

この当時、上京区と下京区の南北の境界はほぼ三条通です。生まれたばかりの上京区役所は中立売通西洞院西入に設けられました。

初代の上京区長は三条柳馬場東入の富商・杉浦利貞。杉浦は下京区（この「下京区」は上京区が生まれた頃のという意味です。あやややこしい）の人ですが、その声望と行政経験から上京区長に就任しました。

この地図を見て感じるののは、明治になって近代化が進んだといっても、基本的に明治前半の京都はほとんど江戸時代の町並と変わっていないということです。



京都市街全図（大正九年）

区役所ができ、旧京都守護職屋敷が京都府庁になり、小学校が開校し、相国寺の隣には同志社英学校ができました。明治十年（一八七七）には京都・神戸間に鉄道が開業しました。京都御苑には常設博覧会場ができました。

しかし、道路は狭く市街電車は通っていません。鍵の手状の今出川通はまっすぐに描かれています。が、実際には江戸時代そのままです。三階以上の高い建物はほとんどありません。

上京区域でこの時期最大の変化は、禁裏（京都御所）のまわりから公家屋敷がなくなったことかもしれません。

この地図が、江戸時代の地図にくらべてあでやかに見えるのは、上京区・下京区それぞれの組（元学区）が色分けされているからで、これがなかったら体裁といい内容といい、江戸時代のものと同じ間違うところですよ。

■大正の上京区

前頁の地図は大正九年（一九二〇）に出版された「京都市街全図」の現上京区域を中心にした部分です。

この地図で目をひくのが市街電車の路線です。もともと京都市内の市街電車は私営の京都電気鉄道（京電）と京都市営電気軌道（市電）が併存しましたが、大正七年に京電が市電に吸収され、この地図に描かれた京都市街では市電による近代的な交通ネットワークが作られています。

電車を通すということは、江戸時代以来の狭い通りを広げるといふことです。これを可能にしたのが明治四十一年（一九〇八）に着工された京都市の三大事業にほかなりません。三つの大きな事

業というより、京都では固有名詞やキャッチフレーズみたいに使われた語です。

三大事業は、第二琵琶湖疏水建設、上水道敷設、道路拡張の三つの大事業のことです。道路拡張には当然市電敷設を前提とします。琵琶湖疏水（第一疏水）工事の陰にかくれ、三大事業が京都はじ

まって以来の大事業だということがなかなか理解されません。この事業で現代京都の都市インフラの基礎がつくられました。

竣工したのが明治四十五年（一九一二）のことですから、この地図に描かれたのは、三大事業で大きく変わった京都の姿にほかなりません。



京都近郊（昭和3年）

上京区域では、前述の今出川通の直通化が済んでいます。もちろん道幅も広げられました。

烏丸通は明治四十五年（一九二二）に広げられ市電が敷設されました。京都駅から京都御所への天皇の行幸道路として位置づけられ、大正四年（一九一五）の大正天皇即位大礼（御大典）ですぐに役立つことになったのです。

それまで上京区域の主要道路は、南北が寺町通、東洞院通、室町通、西洞院通など、東西が中立売通、丸太町通、二条通などでしたが、明治末から大正にかけて、烏丸通や今出川通などが、メインストリートに加わってきました。

この地図の時代、上京区役所はまだ開設時の中立売通西洞院西入にあります。現在地に移転するのは昭和十三年（一九三八）のことです。

■昭和の上京区

前頁の地図は昭和三年（一九二

八）に出版された地形図「京都近郊」のうち現上京区域の東半分です。

昭和三年には昭和天皇の即位大礼が京都御所で行われ、大正天皇即位大礼に続く大イベントに日本中がにぎわいました。

この地図は大札を記念して、陸軍参謀本部陸地測量部から出された非常に精巧な図で、京都近郊四枚一組で定価二円。いまのお金で六千円から八千円ぐらいと、美しただけに高価な地図でした。

基本的にあまり大正の地図と変わっていません。ただ、河原町通に市電が走っています！

河原町通に市電が敷設されたのは、丸太町から今出川までが最初で、大正十三年（一九二四）のことです。河原町通はもとも狭く食い違いが多い通りでした。むしろ寺町通のほうがまっすぐ通った道路で、明治三十四年（一九〇一）に京電が敷設されています。

そこへ河原町通が幅を広げ市電を通すことで、寺町通の狭軌京電

（昭和三年当時は市電）は廃止され、河原町通が上京区の主要な道路として生まれ変わりました。

このあたりになると、京都市街は、地図上ではわたしたちが現に親しみをもっている景観になりました。

このあと、市街の拡張の産物として西大路通や北大路通、東大路通、九条通がつくられ、戦争の遺産として広い広い堀川通や五条通が生まれましたが、こと現在のの上京区域に関していえば昭和のはじめにできあがった骨組がいまも続いているといえるでしょう。上京区役所はずっとあとの昭和十三年に現在の場所に移転しましたけれど、

（京都市歴史資料館 伊東宗裕）

ここで書いたことの全京都版は『京都市政史』に詳しく述べられています。市電はなぜ河原町通を通ることになったのか、京都のメインストリートはどうやって作られたか、この本なしではもう京都の近代史は語れません。

お求めは歴史資料館へ。

電話・・・〇七五―二四一―四三二二

永年の信用
まごころのご奉仕

葬祭センター

公益社

本社 京都市中京区烏丸通三条下る ☎075(221)-4000
フリーダイヤル ☎0120-00-4200 <http://www.koekisha-kyoto.com>

◆ 葬儀式場 ◆

公益社北ブライツホール(堀川黎明)	京都市北区黎明通堀川東入	☎ 075(414)0420
公益社中央ブライツホール(五条大和路)	京都市東山区五条通大和路	☎ 075(551)5555
公益社南ブライツホール(堀川八条)	京都市南区堀川通八条下る西側	☎ 075(662)0042
公益社西ブライツホール(五条西大路)	京都市右京区五条通西大路西入南側	☎ 075(322)0042
公益社宇治ブライツホール(宇治横島)	宇治市横島町(文教大学前)	☎ 0774(20)0042
公益社滋賀ブライツホール(大津)	大津市朝日が丘1丁目	☎ 075(523)0042

黒田正玄家の竹工芸(中)

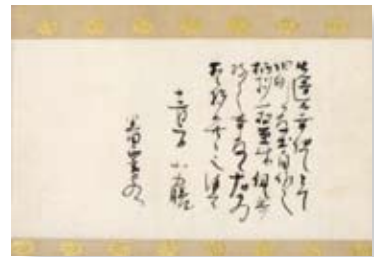


黒田正円 茶杓 (初代二男)

五代正玄の後を嗣いだ長男の六代は、十代將軍家治・表千家八代啖啄齋・裏千家九代不易齋・武者小路八代一啖齋の御用をつとめ、後には十一代將軍家斉の時に御目見得の栄にも浴しました。四十二歳の時、天明の大火(一七八八)に遭遇し、京の町の三分の二を焼き尽くしますが、幸いにも黒田家の蔵は焼けなかったために伝来の古い資料が残されました。

六代は文化十一年(二八一四)に六十八歳で没しますが、実子のなかつた六代は井上家より迎えた弥三郎を養子として七代の家督を相続させます。表千家九代了々齋、裏千家十代認徳齋・武者小路千家九代好々齋の御用をつとめ、特に了々齋好みの道具を製作しました。文政二年(一八一九)五十二歳で没します。

十一代で家督を継いだ八代は、十二代將軍家慶・表千家十代吸江齋・裏千家十一代玄々齋の御用をつとめた名工で、幕末の動乱期に柄杓師の家を守り通しました。明治二年(一八六九)六十一歳で没します。ところが養子となった九代は安政六年(一八五九)に父よりも早く二十三歳で亡くなっており、そのため八代が一番弟子であった利助が婿に迎えられる八代の死後、十代の家督を継ぎました。当時は茶の湯不振の時期で、生活用品などを作り暮らしの足しにしたといわれています。明治十四年(一八八一)長男熊吉が十三歳の時、後を委ねて隠居し、明治三十年(一九〇〇)七十六歳で没しました。



小堀宗中 文

しみじみと心のかよう 贈りもの

<http://www.toraya-group.co.jp/>

虎 トラヤ

歡送迎会・親睦会に最適な
パーティープラン

紅梅 KOUBAI PLAN とうばいプラン **¥8,500** (お1人様料金/税・サ込)

お料理: 洋食/和洋折衷料理/洋コース料理
お飲物: ビール、ワインなど9種類の中からお好みで6種類

※お料理はご選択ください。※ご利用は2時間30分です。※ディナー券プレゼント、当日宿泊ご優待など各種特典をご用意しております。
※上記の他にも¥10,000/¥7,500のプランがございます。

ご予約・お問い合わせは宴会予約係 TEL:075-223-8484

地下鉄京都市役所前駅から 徒歩で約1分

京都ロイヤルホテル & スパ



上京区憲法月間

「映画のつどい」

五月の憲法月間にあわせて、同志社大学寒梅館において、映画「火垂る（ほたる）の墓 実写版」が上映されました。（主催 上京区民ふれあい事業実行委員会）

今回は、日本語字幕と音声ガイドによる場面ごとの説明を付けたバリアフリー上映とし、視覚や聴覚に障害のある方や高齢の方も含め、みなさんがともに映画を楽しむことができました。会場には部・二部あわせて約七百名の方が来場され、戦争がもたらす人権侵害の怖さと平和であることの尊さを再認識する上映会となりました。

具作りを得意としました。残念ながら明治四十四年（一九一）四十三歳で世を去ります。

十二代は十一代の妻が家業を嗣ぎます。十一代の実弟、黒田常次郎、黒田弥五郎の助力で、表千家

十二代惺齋・裏千家十三代円齋・十四代淡々齋・武者小路千家十二

代愈好齋の御用をつとめました。明治・大正・昭和の三代にわたつ

て家業を守り、昭和四十一年に当代に家督を譲り隠居しました。昭

和四十八年、九十四歳の天寿を全

うし、十一代、二人の義弟とともに菩提寺である本隆寺に眠っています。

十三代の当代は昭和十一年に十二代の孫として生まれ、千家十職

の先代大西浄心・先代飛来一閑・当代奥村吉兵衛・当代土田友湖ら

とともに家仕に出仕、昭和四十一年、三十歳で家督を継ぎました。

表千家十三代即中齋・十四代而妙齋・裏千家十五代鵬雲齋、十六代

坐忘齋・武者小路千家十三代有隣齋・十四代不徹齋の御用をつとめ現在に至っています。（以降次号につづく）



十二代 正玄茶器

ぼたん鍋と京料理 煙かき 元祖

京・上御霊前烏丸西 〇七五・四四・〇六二〇代

—いつも新しい感動を—

京都御所西、閑静な住宅街に溶け込むシックな外観。さわやかな水のせせらぎが聞こえ、やわらかな自然光がふりそそぐアトリウムロビー。7つの多彩なレストラン&バーで、ブライتن流のきめ細やかなサービスをお届けします。

（客室）183室（レストラン&バー）

- 京懐石「宴（はたる）」●鉄板焼「燻（ひもろぎ）」
- フランス料理「ヴィ・ザ・ヴィ」●テラスレストラン「フェリエ」
- ラウンジ「クゥー・オ・ミディ」●中国料理「花蘭（かかん）」
- メインバー「ムーンシャイナ」

京都市上京区新町通中立売（御所西）
〒602-8071 TEL.075-441-4411（代） FAX.075-431-2360
ブライتنホテルズホームページ
http://www.brightonhotels.co.jp/

葉匠

本家 玉壽軒

〒602-8435 京都市上京区今出川大宮東入
TEL (075) 441-0319・414-0319

みんなで花を

咲かそう活動

ボランティアの皆さんが、熱心に手入れを続ける花々が五月の一斉植え替え作業を経てなお一層美しく、区役所玄関前を飾っています。

区役所を訪れる人や、庁舎前を行き交う人々に憩いと安らぎを与える場となるように、また、講習会等を通じ、まちの美化や環境問題などについても考える機会を広げていければと、日々取り組んでいます。

メンバーの輪も徐々に広がっています。園芸に興味のある方、継続して花の手入れをしていただける方はお気軽に区役所まちづくり推進課までお問合せください。

(電話441-5040)

上京区
イベント



上京区130周年記念

上京茶会

恒例の「上京茶会」が五月二十三日、大本山妙顕寺を会場に、表千家の懸釜で開催されました。雨上がりの木々の緑が「光琳曲水の庭」や「龍華飛翔の庭」などの庭園に美しく映える中、老若男女を問わず訪れた来場者は、用意された二席のお茶を味わいながら、穏やかな初夏のひとときを過ごすことができました。



みんなで花を咲かそう活動

ガーデニング講習会

三月十日「みんなで花を咲かそう」活動の一環として、ルビノ京都堀川において「ガーデニング講習会」を開催しました。講師にはNPO法人・フラワーアーティスト育成協会理事長の辻井康雄氏をお招きし、春の草花数種の寄せ植えを教えていただきました。昨年秋に植え替えられるまで区役所前を飾っていたプランターに、あらかじめメンバーの皆さんが丁寧に色付けしたものを再利用し、色鮮やかに仕上がった作品は、参加者が各自持ち帰り、まちに花や緑が広がる一歩となりました。

宴会・婚礼・会議
宿泊・レストラン

あじわい

¥5,000(税込)

ホテル

ルビノ京都堀川

〒602-8056 京都市上京区東堀川通下長者町
TEL 075-432-6161(代) FAX 075-432-6160
<http://www.rubino.gr.jp/>



レストラン

11:30~14:00

毎週日曜日はお得な
ランチバイキングを
しております

おひとり

¥1,200(税込)



名物ゆどうふ 南禅寺 **とらふ**

JUNSEI
左京区南禅寺門前 電話 075-761-2311
<http://www.to-fu.co.jp>

酢一筋の商い、伝統の滋味。

きょう 伝統から 未来へ

京・西陣 孝太郎の酢

(有)林孝太郎造酢

京都市上京区新町寺ノ内上ル東入道正町455

TEL (075) 451-2071

FAX (075) 451-8028



「上京・史蹟と文化」は上京区役所まちづくり推進課で販売致しております (TEL 441-5040)

花にまつわるエピソード...



季節も添えて演出します。

心のこもった贈り物 Flower Gift
~花束

アレンジメント
グリーンバスケット
スタンド花 etc. ~

フラワーアレンジメント教室 開催中!

本店 京都市上京区烏丸通今出川下ル tel 075-414-8700
fax 075-414-7787
フリーダイヤル 0120-46-8700

西院店 京都市右京区西院東浄和町 1-1 tel&fax 075-323-1387
長岡店 長岡京市 1丁目ゼン通り tel&fax 075-957-0187
大津店 大津市ロイヤルオークホテルス&ガーデンズ内 tel&fax 077-545-5587

本店2FにてCafeも営業しております。 <http://www.hanakobo.co.jp>



京料理

京都 祇園

花郷

はなさと

◎昼の膳

八坂(点心懐石)三、一五〇円
白川(ミニ懐石)四、二〇〇円

鴨川(懐石料理)五、二五〇円

◎夜の膳

舞妓御膳... 八、四〇〇円より
八毛懐石(夏季限定)二〇、五〇〇円
(各税込サ別)

京都・四条花見小路通下ル西側三筋目角
電話〇七五五六一一三三二一(代表)



創立以来七十余年に
わたって、
和やかな家庭的な
雰囲気にもまれつつ
就学前教育の
本流をめざして、
保育を続けて
参りました。
幼児たちは
楽しい遊びを通して、
人生に必要な生きる
力のすべてを手に入れます。

学校法人 北野幼稚園

京都市上京区御前通一条下る (北野天満宮バス停下車南100m)

TEL.463-0111(代)

http://homepage3.nifty.com/kyotokitano_k/



S.46 上京区民茶会



S.44. 第5回上京区民薪能

上京区文化振興会は 発足以来50年余、 これからも上京区の 文化振興に貢献します。



上京区文化振興会は、昭和33年に結成されて以来、「上京区内の伝統文化の継承と文化の育成強化を図り、文化的な事業を通じ、教養の普及向上により明朗な文化生活の高揚に寄与すること」を目的として、様々な文化事業の開催を通して上京区の文化の普及と啓発に努力してきました。

昭和30年代から50年代にかけては、「古文化財鑑賞会」、「地域コーラス交歓音楽会」、「レコードコンサート」、「能・狂言の夕べ」、「七夕祭鑑賞会・写真コンクール」、「民謡おどりの夕べ」などを開催し、上京区の文化の普及啓発の牽引役として力を注いでまいりました。また一方では「民謡踊を習う会」、「きもの着付教室」、「人形教室」、「座禅入門講座」といった文化教室を通じて区民の皆様の文化生活の向上につとめてきました。毎年開催している上京茶会と上京薪能は、いずれも昭和40年からはじまったものであり、以来45年の長きにわたって上京区を代表する文化事業として開催しています。

また、上京の豊かな歴史と伝統に育まれた質の高い文化を身近に感じていただこうとの思いから、「上京史蹟だより」を昭和51年から平成3年までの間、年4回発行してきました。この冊子をより充実したものとして区民の皆様にお届けしようと、本冊子「上京－史蹟と文化」が平成4年に誕生し、以来年2回発行しております。

本号は上京区130周年記念特別保存版です。これからも、皆様に親しんでいただける冊子となるよう努力を重ねて参ります。

主な事業

- 「上京－史蹟と文化」の編集・発行
- 春・秋の表千家・裏千家による上京茶会
- 能・狂言・琴・舞楽を野外で鑑賞していただく上京の秋の風物詩「上京薪能」
- 自然や環境について考えていただくきっかけづくりとして、区役所の玄関を季節の花々で飾る「みんなで花を咲かそう」活動



H.19 上京薪能



「みんなで花を咲かそう」活動



H.18 上京茶会